

村上市総合計画審議会 会議録

会議名	第2回 村上市総合計画審議会
年月日	令和3年6月30日(水) 14:00~16:10
会場	村上市生涯学習推進センター2階 大中会議室
出席者	<p>【委員】 飯塚委員、石黒委員、岩佐委員、大矢委員、加藤委員、川崎委員、吉川委員、木村委員、斎藤委員、佐々木委員、佐藤(伸)委員、佐藤(八)委員、宍戸委員(会長)、瀬賀委員、高橋(豊)委員、土谷委員、八藤後委員、山村委員、脇坂委員、渡邊委員(副会長) ※欠席 高橋(忠)委員</p> <p>【事務局】 企画財政課：大滝課長、田中課長補佐、田村副参事、渡辺主査、大倉主査、後藤主任 エヌシーイー：木野勢、杵鞭</p>
議事内容	
[進行]事務局	<p>1 開会 〈委員交代、欠席委員の確認〉 ・浅野謙一委員に代わり、土谷孔秀委員が就任。 ・高橋忠栄委員が欠席。</p>
会長	<p>2 会長挨拶 〈あいさつ〉</p>
まちづくり協議会 会長	<p>3 報告 (1) 地域の現状について(資料1) (まちづくり協議会が各地域の現状を説明)</p> <p>只今、5つの地域の協議会の皆様からご報告をいただきました。この件につきまして、本日お集りの委員の皆様からご意見あるいはご質問などございましたら、よろしくお願ひしたいと存じます。いかがでございましょうか。</p>
委員	<p>山北地域の方にお聞きしたいのですが、私の住む地域では以前から公共交通機関とは全く縁がなく、先ほどおっしゃった団体と連携した買い物支援というのは、どのような団体と連携して、このような立派なマイクロバスで事業をやっているのかを聞かせてください。</p>
山北地域代表の まちづくり協議会	<p>まちづくり関係の団体としては、「おたすけさんぽく」という団体がございます。それから互近所ささえ〜る隊、社会福祉協議会、スポーツ協会といった団体が、一緒になって情報を共有できる場、連携支援ができる場を作っていきたいと思いますということで、今年度から取り組んでいます。</p>
委員	<p>もう一つ聞きたいのですが、この事業はどのくらい続いていて、どのような資金、お金の関係とか、マイクロバス自体の所有の関係や、運転してくださる方がローテーションでやっているのか、月に何回くらいやっていると聞かせてください。</p>

山北地域代表のまちづくり協議会	<p>買い物支援の事業でありまして、連携している団体は先ほどの団体が連携しているところではありますが、この事業については、平成 30 年度からまちづくり協議会の事業として、関係団体と連携して取り組みを続けているところでもあります。まちづくり協議会として、買い物困難者対策ということで予算を取ってやっているところではありますが、マイクロバスについては、スポーツ協会が所有しているバスを買い物だけではなくスポーツ関係の事業も併せてやるということで、使わせていただいているところでもあります。</p>
委員	<p>朝日地域のまちづくり協議会の方にお伺いしますが、朝日地域は非常に広範囲な敷地ですが、廃校となった学校で非常に活躍されている旧高根小学校の話をよく聞きます。他の廃校舎の使用状況はどのようになっているのでしょうか。</p>
朝日地域代表のまちづくり協議会	<p>現在、旧高根小学校の廃校舎を利用して、食堂を含めた様々な活動をしております。朝日地域ですと、旧長津小学校をベースとして長津笑楽講という団体が活動しており、長津地域周辺での活動拠点となっております。また、塩野町地域では、旧塩野町小学校を使いまして、年に一度にはなりますがフリーマーケットの開催拠点として使用しております。</p>
委員	<p>村上地域にお伺いしますが、村上地域には商店街が昔から7箇所くらいあったのですが、今商店街の活性化という形がほとんどなされていない。要するに商店街の会費自体が取れない。取っても電気料で飛んでしまうということで、商店街の活動がほとんどなされていないのが現況です。これらの大きな原因としては、やはり商店がありながらそこで生活している様子が見られない。店はあるけれども生活は郊外の方に新しい家を作ってやっているということで、商店そのものが早く閉まってしまうようなことがあると思います。比較的上手くいっている商店街が駅前の商店街で、ここはお神輿を作るなど非常にコミュニケーションを取りながらやっているのですが、そこでもなかなか商店街の運営というものは難しいというようなことです。まちづくり協議会としては、地域の商店街のあり方というのは、協賛というわけではないのですが、子どもたちを参加させながら、伝統文化というものを育てていくというような動きはないのでしょうか。</p>
村上地域代表のまちづくり協議会	<p>毎年7月23日にお地蔵様めぐりというイベントをやっており、地域の子どもたちとより良い関係を維持しておりますし、子どもたちに大変勉強になっているはずです。</p> <p>商店街との連携については、今ほど申したとおり、にぎわいイベントということで、子どもたちと商店街とが関わるイベントということでもあります。</p> <p>伝統のお地蔵様の祭りが7月23日に行われており、合わせて商店街でも様々なイベントを行ってきたということで、古い文化を巡りながら商店街でお買い物をしたり、ゲームをしたりというようなことで、商店街と連携したイベントを行っております。昨年は残念ながら中止といたしました。今年もイベントは中止ですが、スタンプラリーのみ実施ということになります。</p>
委員	<p>これは各まちづくり協議会の方に聞くのか、事務局の方に聞くのかわからないのですが、村上地域には山辺里や瀬波、岩船といった細かい単位のまちづくり協議会がなかったのでしょうか。その所はどのように考えていけばいいのでしょうか。</p>

会長	これは事務局の方でお答えいただいた方がよいかもしれませんね。では、まちづくり協議会のつくりについてどうでしょうか。
事務局	まちづくり協議会については市内で 17 あります。村上地域は 5 つ、荒川が 1 つ、神林 5 つ、朝日 5 つ、山北が 1 つとなっております。本日につきましては、5 地域の代表される方に発言をいただいております。
会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>恐れ入りますが、時間の関係もございまして、本日この場におけます意見、質疑応答はこれで終わりとしてさせていただきますが、委員の皆様におかれましては、追加してお伺いしたいという事がございましたら、先ほど事務局から説明がございました事後シートにお書きのうえ、事務局に提出していただければ幸いに存じます。</p> <p>各まちづくり協議会の皆様、貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。</p> <p>それでは、報告の（２）高校生アンケートの分析結果について、事務局から説明を求めたく存じます。お願いします。</p>
事務局	<p>（２）高校生アンケートの分析結果について（資料２） （事務局が資料を説明）</p>
委員	<p>早速若い人の意見を取り入れていただいてありがとうございます。</p> <p>私事ですが、うちの倅は胎内市のスポーツセンターのジムに行っていて、村上市には個人で経営している民間のものが何社かある程度で、スケートパークや各体育館、荒川や村上体育館、朝日にわずかにありますが、若者が体を鍛えるところというか、スポーツジムみたいなところが少なく、胎内市がすごく充実しているので胎内市まではるばる行っている。</p> <p>ご存じかと思いますが、朝日スポ少のサッカーの本間至恩君という方が今アルビレックスで活躍していますが、あの方は神納中学校だったはずで、スポ少の指導者みたいな人たちの意見も取り入れた方がよいのではないかと思います。アンケートを見ると、文化やスポーツが充実している割合が低いところの 3 番目にあるということは、充実していないという意味ですね。</p> <p>サッカーの話ばかりして申し訳ないが、サッカー協会の方々が一生涯懸命になって人工芝グラウンドの運動をしているが、一向にできないみたいな感じですし、テニスコートにしてもしかり、運動場にしてもそうです。そういったものを取り入れるように、スポーツ指導者や実際に小学生や中学生を指導している人たちから生の声を聴いて、村上市にどのような施設があったら他所の市町村に行かないでここにいてくれるのかみたいなものを聞き取っていくのもよいかなと思いました。</p>
委員	アンケートの内容で、特に私が気になったのは、将来どのような仕事に就きたいですかという問 5 ですが、村上で今一番の問題である、若者がどんどん出ていって仕事と若者のやりたい事でミスマッチがあるということがある中で、この選択肢の中で製造業と建設業が一緒になっている。我々建設業からすると、このデータを見ても将来どのくらいの人がこの業界に入りたいと思っているのかがわからないような内容のアンケートの選択肢になっているなど思いました。これは多分他のところもよく見るとそうかもしれないのですが、もう少し細かく、せつかく取るのであれば、やっていただくと将来のことがわかってよいのかと思いました。

事務局	<p>若者からの意見というお話を前回から聞いておりまして、本日用意はできていませんが、先ほど子育て支援センター等での聞き取りという話も出させていただきましたが、その他、村上商工会議所青年部や地元の会社だとかそのような所での聞き取りを考えております。まだ決定はしておりませんので、いくつか候補の中でということで、例を挙げさせていただきました。スポーツに関しましても、様々な見方があるかとは思いますが、その辺りも考えていきたいと思っております。</p>
会長	<p>確かに若者という広い言い方、今回市役所の方でも若者の意見を聞くというある意味大きな取り組みをしてくれたと思いますが、その中で例えばスポーツの視点だとか、あるいは活躍の場の視点とか、あとは委員からもお話がございました将来の就業とか、様々な見方、観点があるという事でありますので、市役所も今後若者の意見を聞くにあたっては、そのような観点もあるという、まさに本日委員の皆様から頂戴した意見も踏まえて、今後若い人たちの意見、あるいはそれに関する方の意見ということで努めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>本間至恩君について、今はあるのかもしれませんが、当時彼が小学校の頃には神納にサッカーのスポ少はなかったです。それで朝日に行って、朝日のスポ少から今、アルビレックスに行って、海外に行くのではないかとまで言われ、アルビレックスがJ1に行かなかったら他のJ1のチームに行くのではないかという話になるくらい飛躍しているわけですが、あの時神納にもスポ少があれば、神納ももっと名前を売れたのと思う。</p>
副会長	<p>スポーツ審議会や施設部会の会議などいろいろあるので、そういった所の情報を、皆さんになるべくわかってもらった方がよいかと思いました。</p>
委員	<p>今のやり取りに関連して一点お話をさせていただきたいのですが、このアンケートの1番の、今ご指摘があった村上市の魅力についての低い方に文化やスポーツ施設とあるのに対して、2番の暮らしたいまちについての割合が高い所にも同じ項目が入っているのです。ということは、少しこれを考えると、現状は充実していないが、例えばここを充実させていくと定着、あるいは先ほど各協議会の方からもあった関係人口とかを呼び込める可能性も恐らくあるのではないかと思います。ですので、事務局の方をお願いしたいのが、例えば今お話のあった質問の間3と間4の各項目でそれぞれ当然関連している部分があるはずなので、各質問の回答をもう少し細かく見ていくと、現状何が足りなくて、将来ここを充実させればもっとまちの活性化に繋がるであろうというヒントがもう少し見えてくるのではないかと思いますので、引き続きご検討いただければと思います。これから大学生とかにもアンケートを取ると伺っておりますので、それも含めてよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
会長	<p>せっかく苦勞してアンケートを取られましたし、今後も苦勞して意見を聴取することがありますから、そこから何が伺えるか、何を求めているかという市としての考え方も、次回あたり報告いただければありがたいと思っておりますので、委員からのご指摘も踏まえてよろしくお願ひします。</p> <p>それでは時間も大分押しておりますので、続きまして議事に移らせていただきたいと思います。</p>

委員	始める前にすみませんが、最初に案内状では基本構想の案の検討は順番が下になっていて、施策の総括の方が上に書いてあったかと思うのですが、次第を見たら逆になっていて、私は施策の総括をしてから基本構想の案を改めて見てみるということが必要なのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。
事務局	今、委員がおっしゃったとおり、案内の時には総括が先で基本構想が後の順番で出させていただきましたが、本日の次第では逆に載っている状況であります。こちらにつきましては、この後議事の（１）の基本構想の素案について説明をさせていただくのですが、ここでお話をさせていただきたいと思っております。
会長	何故ひっくり返ったのか、基本構想の方を先に議論するのかという事を伺いたい。
事務局	これから基本構想のお話をさせていただく訳ですが、基本構想の話と併せて説明をした方がやりやすいので、それでもよろしいですか。それとも端的に一度説明させていただく方がよろしいでしょうか。
委員	順番としてはこれまでにやってきたことのまとめをして、そのうえで次の基本構想を考えるのではないかと捉えていたので、いかがでしょうか。
事務局	本来総括があって、その後基本構想だったり基本計画だったりというところは、委員のおっしゃるとおりでございます。これから基本構想の素案の説明の中で、その辺りも委員に納得いただけるような説明を併せてさせていただきたいと思っております。
会長	まず、何故このような構造にしたのか。要は委員のご指摘の通り、まず総括してから素案ということになるのだろうけど、この素案というものをいつ議論するかということだと私は認識しているのですが、そういうことではないのですか。 私もまず素案についてやると、事前に事務局から説明を受けました。素案というのはある意味、非常に抽象的に議論するものなのです。まずは具体的に各委員の専門分野についてご意見をいただいたうえで、次なる基本構想というものを考えた方がよいのではないかということで、このような議事となっている。そのためには、基本構想については今日で終わりではなく、第３回、第４回の場でももう一度振り返って、基本構想について議論したいということの説明したうえで、具体をみっちり第２次総合計画を総括していこうという話の持っていき方で、私は事務局案を了承したところでございます。そのような観点から、まずは基本構想については、現時点ではこんな基本構想が挙がってきますが、今日で決めるのではなく、次なる説明の具体論をもう少し委員の皆様にご意見を言っていただいてから、もう一度基本構想について見直していきましょうという段取りであります。よろしいでしょうか。 では、時間もありませんので、事務局は（１）（２）を通して説明してください。お願いします。
事務局	<p>４ 議事</p> <p>（１）基本構想（素案）について（資料３）</p> <p>（事務局が資料を説明）</p>

事務局	<p>(2) 第2次村上市総合計画の総括(案)について(資料4) (事務局が資料を説明)</p>
会長	<p>只今(1)と(2)について続いて説明を受けました。このことにつきまして委員の皆様からご意見あるいはご指摘などを頂戴したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>アンケート結果の満足度と重要度で、今ご提示いただいた計算式を基にそのように4つの象限に振り分けられたという事ですけども、振り分けた時の基準値、数字がいくつより大きいと右側の方に行くとか、いくつより小さいと下の方に行くとか示されていないので、どの数字を持ってその象限に行くのかというのが非常にわかりにくい。最初はこちらの計算式がなくて、何%という表示を基にこの象限を振り分けられたと思っていたので、普通これを振り分ける時は50%を境に分けると思っていたので、満足度が低い数字でありながら満足度が高い象限の方に行っていたり、逆に重要度が高いのに重要度が低い象限に行っていたり、非常に不可解な分け方になっていた所が気になりました。今回こちらの計算式を出されて、その基準で振り分けられたという事がわかりましたが、例えば附属資料2-1の計算例のところで、「1健康の増進と医療体制の充実」の割合で満足度が0.27、重要度が1.42で、数字だけ見ると満足度が0.27と非常に低く思うのですが、こちらの4つの象限で分けた時に満足度が高い所の方に星印がいているということがありますので、具体的にいくつから高いとみなすのかというのを併せてご説明いただかないとわからないということがあります。</p> <p>あと、事前配布資料の資料4附属資料2のところで、4つの象限に番号が振ってあって、①②③④というように振られているのですが、4つの象限に分ける時には、この振り方は①と②は逆が通例だと思います。右上のところに①で左上が②で、反時計回りに①②③④って振り分けていくのが通例なので、ここも少しおかしいと思ったということと、こちらの表で目標値の結果と満足度の結果が連動していない。例えば、政策Noの1-4とか3-4というのは、目標は達成しているのですが、満足度が低いということになっていますし、2-2とか2-5というのが、未達成だが満足度は高いというところに分類されていますので、そうすると、市民の皆様の意識と市の目標の立て方にズレがあるのかもしれないと考えました。</p>
事務局	<p>まずはグラフの数値でございますが、確かに記載しておりませんでした。申し訳ありません。各グラフのセンターになっております数値は、満足度や重要度の中央値ということで、今回34の分野がございますので、そのちょうど真ん中の数値ということで、満足度につきましては0.12が中央値ということで、真ん中のラインに該当しています。重要度につきましては、0.98ということで重要度の真ん中の数値がそのようになっております。それより多いか少ないかということで、こちらの星印が記載されているとご理解をいただければと思います。</p> <p>先ほどの2点目にございました資料2につきましては、通例に従わず大変申し訳ございませんでした。今後はそのように対応をさせていただきたいと思っております。</p> <p>3点目でございますが、確かにアンケートの結果と我々内部で第2次総合計画を作成する時点で決めました目標値で、意識の部分で乖離しているところがございますので、その辺も併せまして、第3次の目標値を定める際には、その部</p>

委員	<p>分を十分考えながら設定をさせていただきたいと思います。</p> <p>これだけ項目が分かれているので、わからなかったらわからなかったでよいのですが、資料4の10ページ目の「森林資源の保全と有効活用の推進」というところの、村上市産材の住宅での利用が未達成になってはいますが、私仕事でやっていますが、確か年度の途中で満杯になって予算がなくなったと言われたような記憶がありますが、これはどうなのかというのが1点。</p> <p>それと、港湾の7ページ、「港の整備と賑わいづくり」のみなどオアシスのところで、イベント来客数で数字が出ていて、実績が300となっていますが、このイベントは村上商工会議所青年部がやっている「いいねっか村上」と岩船商工業会の「みなとフェスバル」と有志の方々がやっているカラオケ大会とか、あと盆踊りくらいしかありませんが、その数ですか。</p>
事務局	<p>今ほどの1点目のご質問、市産材の目標未達成というようなお話でございましたが、確かに予算は年間1,200万円ほど用意をしています。ここに書かれている指標につきましては、市産材の使用量をもって達成しているか未達成なのかということで、掲載をしています。実際に市産材の申請件数、あるいはその補助金の額につきましては、もう予算いっぱいになっておりますので、その乖離が表れているということです。</p>
委員	<p>これ金額ではなくて量ですね。要は材積ですね。</p>
事務局	<p>2点目の2-6の来客数でございますが、こちらにつきましては当然港に関わるイベントということで、今ほど委員からおっしゃられたイベントが対象となると思うのですが、担当課でどのイベントを押さえてこの300となったのかは、確認させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>政策No2-1「環境の保全と新エネルギーの推進」について、3年前から村上沖洋上風力の話が出ていますが、これが一向にここに表れてきていないというようなことで、これからの総合計画の中には洋上風力というのは必要になってくるのではないのかと思って聞いたところです。</p> <p>それともう一つ、ここに「木質バイオマスストーブ設置費補助金の交付」というのがありますが、私は燃料屋をやっているものですから、木質バイオマスのペレットを作る段階には、相当一酸化炭素が出てきます。ペレットを作る段階で一酸化炭素が非常に出てくるものですから、果たしてこれが環境を考えているのかどうかということになりますと、疑問に思っているのですが。</p>
事務局	<p>岩船沖洋上風力発電ということで、第2次総合計画の方に記載がございました。そちらは洋上風力発電推進委員会ということで立ち上げ、進めさせていただいたところではあります。平成29年度に事業主体が事業化は難しいということで、事業を中止したということでもあります。その事業所の撤退に合わせまして、第2次総合計画に記載されております岩船沖洋上発電の推進委員会の方も条例を廃止したという状況ではございますが、その後、県の方が主導となりまして、現在胎内沖の方に村上市としては参加しているという状況でございます。こちらにつきましては、第2次総合計画の政策の方針に記載がございまして、地域の特性に合った新エネルギー及び省エネルギーの普及・促進を図るという大きな政策の方針がございまして、今後引き続き洋上風力発電の導入の推進についても、進めていきたいというような考えでございます。</p>

委員	<p>委員のおっしゃるとおり、ペレットのバイオマスについては、少し疑問な所がやはりあります。県の庁舎のところにペレットストーブというものが置いてありますが、たいして暖かくないし、加工していけばいく分だけ製造エネルギーというものが出ます。持っているCO2の体積に対して製造エネルギーでプラスマイナスになるという事もあるので、どうなのかというところもある。実はご存じかもしれませんが、ウッドショックと言いまして、コロナ禍になってアメリカは木材バブルになっていまして、日本に全然材木が来ずに、中国が皆買っているような状況です。日本の山が今大変な状態になっていて、木材の取り合いになっている。燃料にして電気を起こすくらいだったら、住宅に使ってほしいと思います。</p>
委員	<p>この地域でも今バイオマス発電が出てきていますので、その辺の材木の供給というのはどうなっているのでしょうか。</p>
委員	<p>正直言って発電どころではなくなってくると思います。アメリカもロシアも全部そうなのですが、日本のエンドユーザーが一番わがままで、工務店に要望ばかり言うものだから、工務店もユーザーが怖くて寸法精度の間違いないものをすごく求めるわけです。そうすると、日本に来る材木は中国に行くより精度が高く、モノがよくて、文句の言われぬ特Aみたいなものしかこない。今、材木がなくなってきた中で、中国はそんなことは言わないわけです。そして経済がすごく発展しているので、日本より遥かに高く買う。文句ばかり言う日本になんか木を売らないというのが、地球上でそうになっていて、日本でもこれから自給自足していかなければいけない状態にくる。でも日本の家づくりでは、消費者がなんでも完璧にしなければならぬ、隙間一つ空いたらダメみたいな家を勧めているがために、結局そのツケが今きて、こんな完璧な日本の家に材木なんか売らないみたいな話になってしまっているのです。だから多分ウッドショックというのは、高止まりはしますけど、恐らく業界の中ではこのまま並行して行くのではないかと。だから発電なんて余裕はないと思います。ペレットストーブもそうなのですが、ペレットストーブは電気を使うので、停電してしまうとせっかく木なのに点火しないのです。薪ストーブだけだったら火をつけるだけで全然電気はいらないのに、何であえて電気まで付けて、プロペラを回す必要があるのかと思います。</p>
会長	<p>委員同士のご意見をいただいたところでありますので、そういうことを踏まえて次のこの環境というところですね、洋上風力及びバイオマスについての検討という事で動いてもらいたい。</p>
委員	<p>基本理念というのは少し関係してくるところだと思うのですが、一つお願いがあります。まちづくり基本条例というものがあありますが、その逐条解説というものはどこにあるのかということをお示しいただきたいと思います。</p> <p>資料4の項目の中で、財政が大きく関与しなくても解決するような施策というものをまず計画通りに進めていくことができているかどうか。お金がない状況ですから、お金があまりかからなくても進められそうな施策というのは、果たしてどれくらい進んでいるのかということを実に検証していくことが大事なのではないかと思いました。それがお金をあまり使わなくても住民の暮らしを豊かにするところに繋がっているような施策であれば、しっかりと掲げてやっていくことが必要だと思いますので、そのことが一つ。</p> <p>それから先ほどアンケートで項目の要素がいろいろ入っているとおっしゃったことがありますが、私もこの施策を見ていて、アンケート項目を基に評</p>

価をしていらっしゃると思いますが、いくつかの要素がアンケート項目に入っているために、回答のどこについての満足度や重要度を評価しているのかというのが不明確だと感じています。その評価を基にして施策の効果を見ているということですので、実状が的確に把握できているのかという疑問を持ってこれを眺めました。

そして、知りたいことは何なのかと先ほどおっしゃっていましたが、曖昧ですとアンケートの結果から具体的な施策が作りにくいのではないかと思います。例えとして、市民アンケートの16ページに年代別の女性や高齢者が活躍する場を増やすというところの項目があります。この回答の年代別の母集団がどうなっているのかがわからないので、高齢者の回答がどうもこのアンケートは母集団の割には少ないのではないかと。集計結果を見て捉えたのですが、そうだとすると母集団に対して見ると、若い年代の18歳から39歳の女の人というのは、活躍の場を増やしたいと考えている人が少ないのかもしれない。さらにアンケートの16ページの下段ですが、60歳から69歳では活動する場を増やしたいというのは5割近くあります。高齢者で退職した人が多くなる世代ではないかと思うのですが、まだまだ活動の場を増やしたいと思っているのかもしれないし、あるいは女性が活躍する場を増やしたいと考えているのかもしれない。これ性別はわかりませんので、この結果だけではそういったことが見えない。

総括表16ページの上段の所に「各種委員の女性登用数」というものがありますが、これの数がすごく減っていますが、その理由は何かというのが気になりました。これはお金もあまりかからないで達成できる目標だと思うので、人生の経験とか社会的経験も少しだけ多い60代くらいの女性の方たちが、男性も含めてかもしれませんが、女性の方の登用ということがある意味可能なのではないかというようにも見えます。推薦とか候補とか対象をどこの方に絞ってやっているのかわかりませんので、市民が様々な社会的な活動に参画や活動したいと思っているような、そういったものをきちっと把握して、そこに働きかけてみれば、市政に参画して積極的に様々な会とかに出てくださいる人も増えるのではないかと思います。

これはとにかくお金を使わないでできることだと思いました。このようなことを考える時に、データの出し方やアンケートの取り方とか、そこもやはりもう少し細かく分析をされた方がよいのではないかと感じました。基本構想のところの理念は変わるかもしれませんが、今のようなことをしていくには、やはり女性がそういった様々な社会的活動に参画することをためらっているのか、それともなかなかそのような場がないとか、手法を学ぶような機会がないので、それで参画できないのか。その辺りがよくわかりませんので、例えば出前講座ではなく出張講座みたいな形で様々な職域の団体とか、学習団体とか地域の所に、市の方で出向いて行って、女性の社会参画に関するような講座を積極的にしていくとか、そういったことがやはり、いわゆる「育む」と言いますか、あるいは「創る」という基本理念に沿っているのではないかと私は考えてこの資料を読みました。

とにかく財政が厳しいので、お金をかけなくてもやれることをとにかく整理して、どこまでやれているのか、それに対してある程度の力量を置いたら、もっとお金を掛けなければならないところはどこなのか、というような見方をしていたらよいのではないかと思います。道路なんかはものすごい状態です。

会長

どうもありがとうございました。
財政に関与しなくても進められるものは進めるべきであるというご意見を、

	<p>そのための様々な女性登用率などの例を出されながら賜ったところでございます。</p>
委員	<p>資料4の2ページ目の1-1のところ、目標値のところの3段目に「国保被保険者一人当たりの医療費」と書いてあるのですが、国保の制度は国保と後期高齢者とで分かれていると思うのですが、こちらは後期高齢者も含めてのものなのか、それとも国保制度だけのものなのかというのは、データとしてどうなのかというところを疑問に思っ、ご質問させていただきました。</p>
事務局	<p>後期高齢と国保両方かというところは、確認させていただきたいと思ます。</p>
委員	<p>特に高齢化率が進んでいると思うので、後期高齢者医療制度の医療費について、データが別であれば恐らく国保の実績値と後期高齢者医療の実績値は目標値と伸び率が違ってくると思うので、その辺りを明確にさせていただいた方がよいかと感じました。</p>
副会長	<p>資料4の2ページの1-2の「子育て環境の充実」というところで、私も第2次総合計画に関わらせていただきましたが、目標値に「子育て支援センターの利用者数」とあります。令和2年度の実績値はコロナ禍もあって、閉所していた時期もあり、または子どもの数自体が減っているということもあると思うのですが、例えば子育て支援センターは未就園児が利用するものですが、兄弟に小学生がいると一緒に利用できないのです。例えば土曜日とか休みの日とか親子で行きたいと思っても、下の子は連れていけるが、上の子は連れていけないというのが実態です。だから利用したくてもできない状況もあるわけです。そうすると、やはり一緒に利用できるように考えないと、支援センターの利用者も増えないと思うので、単純に利用者数だけで比べてしまうと、その辺の実態がわからないので、第3次総合計画の時にはその辺の改善すべきところを改善するとか、目標値をもう少し考えた方がよいかということが一つです。</p>
	<p>それからもう一つ、スポーツのことで15ページに5-4「生涯スポーツと競技スポーツの推進」とあります。今、皆さんご存じのとおり学校の部活動が国の改革で学校から地域に移行するという大きな改革に入っているところです。そう考えると、生涯スポーツも大事だし、競技スポーツも、先ほどの本間至恩君の話もあるのですが、どちらも大事です。それをこれから取り組んでいくにあたって、生涯スポーツは今、総合型スポーツクラブもやっているの、ある程度進んでいると思うのですが、部活動が今後移行していく段階で、学校部活動は学校教育課が、生涯学習は生涯学習課と担当課が違う。そこを上手く連携しないと、あっちだこっちだと言っている場合ではないのかと思、生涯スポーツと競技スポーツの推進というところに様々な連携が必要だと思ます。実は今スケートパークの管理にも関わらせていただいているのですが、やはりなかなか地元の利用者は少ない。スケートボードの聖地という形でこれを作ったので、子どもたちが学校の授業でもっと使うなど、そのような連携が当初なされていなくて、ようやく去年あたりからスキーができない時の代わりに利用したりしているので、これからはやはりスケートパークに関してももっと子どもたちが授業等でも利用したりとか、そのような形でやっていかないとなかなか利用者も増えないのではないかと思ました。</p>
委員	<p>今スケートパークのお話もあったので、うちの子もスケートパークができてからスケートボードを始めました。実際行っていたのは最初だけで、やはりと</p>

<p>委員</p>	<p>ても上手な子たちが多く来るので、始めたばかりの子どもにとってはレベルが高い。その中に混ざりたくても混ざれないというのが正直な声です。せつかく割と近い所にいるので利用はさせたいのですが、分散なんかができたらよいのかということが感じられました。</p> <p>14 ページの 5-1、「郷育の推進と学習環境の整備」ということで、特別支援教育の推進と書かれているのですが、小学校なんかでも発達支援の子たちが今結構多くいます。そこに付いていらっしゃる先生が、特別支援教育の経験者ではないことが多くて親の方も困惑する。こっちもわからないのに誰に聞けばいいのかというのが実情かと感じられます。発達支援の専門の小児科医という方も、村上市だと一人だと思います。なので、新潟市など村上市外まで発達外来の受診に行ったりしているの、そのようなことを考えても子育て世代が住みやすい環境かどうかというのは、そのような所に出てくると思います。子育て世代が増えると働き盛りの年代の住民も増えるわけで、そこで今度は税金が上がってくる。そうすると多分、村上市の収益になるわけですから、他の点でも潤っていなければいけないのですが、そういった所に着目するのの一つかと感じました。</p> <p>2 ページの政策 No 1-2「子育て環境の充実」であります、やはり圧倒的に未満児保育の枠が少なすぎると感じております。私は保育園児の子育ては終わったのですが、様々な声がやはり同世代から聞こえてきて、その中でも未満児保育が少ない。それは頼む方もそうなのですが、雇用が非常に大変だということで、村上市にきてもらうためには子育て環境を手厚く整えるということは非常に大事だと思っておりますし、出生率を上げたいけれどそれが整っていない。この悪循環を第3次総合計画で書いていただけたらと思っております。そのためには、その世代の方たちをもっとクローズアップして、お話を聞いていただきたいと思っております。</p> <p>それから、13 ページの 4-3、「防犯体制の充実と交通安全対策の推進」ですが、私の家の近くに瀬波に行く跨線橋があり、そこでも不審者が年に何度も出ております。先日6月1日も出てメールが回ってきたのですが、私の娘も実は2年前に背後から抱き着かれるという事件がありました。防犯灯だけではなくて、事例がある所はカメラなど具体的な強化対策を取っていただきたいと思いました。</p> <p>最後に、14 ページの 5-1の「郷育の推進と学習環境の整備」ですが、限定的な話になって非常に申し訳ないのですが、村上では三大祭りに村上、瀬波、岩船とある中で、瀬波、岩船は小学校の頃から全部参加する町内が同じまま育って中学校卒業までとなる。しかし、村上まつりに関しては、村上の中で村上小学校と村上南小学校で分かれておりまして、その世代でずれがあると言いますか、昔の先輩方は小学校も中学校も一緒なので一年中交流がありました。村上小学校、村上南小学校、それから第一中学校、東中学校に分かれているために、同じお祭りに参加しても変な違和感があったりと、せつかく良いお祭りなのに文化の違いであったり、交流の隙間があるように感じております。郷育教育のところの一体となった体制づくりとありますが、学校と地域の距離が縮まるのももちろん大事ですが、例えば参加する子どもたちの距離を縮めるために、恐らく今小学校で村上まつりとか郷土芸能とかを勉強する機会があると思っておりますので、そういった際に2つの学校の交流会や勉強会等をしていただいて、子どもたちも仲間づくりができるようなきっかけがあればよいかと感じております。</p> <p>委員</p> <p>2点ほど私の意見も踏まえたうえで伺いをいたします。9ページ政策 No</p>
-----------	---

2-10の「良好な住環境の整備」というところで、特に空き家の部分で、この目標値として3項目挙げられていて、空き家バンク云々で達成となっています。ここは恐らく空き家バンクの登録云々の数字で達成だという事でおっしゃっていると思うのですが、私も集落を預かって10年以上になりますが、空き家対策というのは、空き家バンクが埋まるかどうかということは全然集落としては関係ないのです。空き家バンクが埋まるということは、つまり人が住める建物ですから。各集落で一番困っているのは、住めないでボロボロの建物の両サイド、真向い、後ろ、そこに住んでいらっしゃるお家の方が困っているわけです。そこがこの住環境の整備の中でぼけている。つまり数字の中で空き家バンク云々というのは、早い話が実際住んでいる方にとっては関係ないのです。ですから、一番市の施策の中で、住んでいる住民の方々が今切に願っているのが、もう手が付けられない建物がいっぱいあるのです。瓦は飛んでくる、台風が来たら心配、私の集落は海沿いの集落ですから、冬になったら毎日台風のような風が吹いているわけです。そのような中で、建物が倒れそうなものが多いのです。こういうものをまずどのようにしていくのか、はっきりしたものを市として示していく必要がある。国でも空き家に対して施策も定まっていて、いわゆる各自治体で取り壊し等も含めて補助も出すから進めなさいという指示は出ているのですが、実際、これを各自治体で手を付けられないですよ。Aの建物に手を付けたら、今度はうちもと様々な所から出てくるわけですから。それは大変だということで、市役所の方々のご苦勞もわかるのですが、ここで出ている住環境の整備というところとは少し意味合いが現実的には乖離しているので、この中身としてはそのまま受けられないと感じました。それと同時に、ボロボロになってからだとどうしようもないので、その前にこの空き家は誰が持っているのかということ、やはりきちっと捉えて積極的にその建物に関与させるべく指導するのが行政であろうかというように思いますので、その点が一番大事だと思います。

もう一つは、13ページ政策No4-2、「防災体制の充実」ですが、私も集落のトップをやっていたから、防災に関しては自主防災組織という関わりの中で長もやっておりました。私の住んでいる神林地域というのは、自主防災組織が40集落ありまして40できあがっております。つまり、達成率100%で自主防災組織ができております。なおかつその下の目標の中の防災士というのは、これも達成されているわけですが、これは防災士の数ですね。市が捉えようとしている数200を上回って207まで行きましたという事をおっしゃっているのですが、ここの防災士を市は今後どのようにしていくのか。私の集落でも防災士は3人おるのですが、市はその防災士を各集落の自主防災組織の中でどのような位置づけで、どのような恰好で育てていって、地域の消防団とどのように絡ませていくのか、ここら辺が明確にされていない。つまり、防災士に聞いても「免許は取ってきたけど、どうすればいいのか」という話になるのです。ですから、ここで言っている防災士は達成されているわけですが、数字ではなくて、市として防災士をどのようにして育て、どのように地域に溶け込ませるのか。実は防災士は地域に溶け込んでいないのです。ここら辺が一番の問題ですので、是非一つ捉えていただきたいということ。合わせて自主防災組織というのは集落にできあがっておりますが、ここに対する指導というものをもう少し市としてきちっとしたマニュアルを作っていただいて、いざ災害が起きた場合に自主防災組織は、どのようにして初動から始まって、どのようにしてやるのかという、ここら辺のマニュアル作りというものをきちっとなさるべきだというように思いました。達成と未達成がありますし、満足度と重要度というのがありますが、この星の位置がどう見ても乖離しているようではないので、ここら辺も踏まえたいうえで、もう一回達成された部分を洗い直してい

<p>委員</p>	<p>ただければと思います。</p> <p>私の方から申し上げたいのが、基本構想の資料3の所にある「デジタル変革への対応」、それに関連して資料4の所の今ほどご指摘のあった4-2、及びICT関係の整備推進である6-4、ここに関連してコメントをさせていただきます。</p> <p>まず一点目が、この資料3の「デジタル変革への対応」で3項目挙げていらっしゃるのですが、私がざっと読んだ限りこの①②③の順番は、③がむしろ②にきて、現行の②になっている「サービスの必要性を見極める」というように書かれているのですが、実際にこのデジタル化というのは、導入されていくとメリットもあり、あるいは経過措置ですね。その導入の経過にあっては、実際に行政の方々、あるいは利用する方々に一時的に負担が増えることが生じるのです。それが徐々に置き換わっていったら、実際に使いやすくなっていくという特徴があるのですが、その辺も踏まえるとまず使う使わないを見極めるというよりは、むしろ導入の優先順位を付けるということがまず大事なのではないかということが一点です。当然導入には1年、2年で一気にできるものではありませんので、数年あるいは10年くらい、総合計画2期くらいは見ないと形になってこないかというような印象を持っております。特にこういったデジタル化、デジタル変革というものは、実際に導入している中でも、技術の進歩というものが当然ありますから、それに柔軟に対応できるような考え方をしておくことが必要かと思えます。</p> <p>もう一つは、先ほど申し上げたようにメリットが導入の割合に比例して出てくるものではなくて、やはりある程度導入が進んでから一気にメリットが出てくるので、そこまで粘り強く取り組めるかどうか。その辺も計画内の構想にきちんと反映させておくべきだと思います。</p> <p>それに関連して、今ほどご指摘のあった、4-2の「防災体制の充実」の中に避難所Wi-Fiの設置というのが施策に取り組みられていますし、あるいは6-4で「ICT・情報化の整備推進」ということで項目が挙げられておりますが、実際に例えば数値目標にしづらい部分も現実にございます。その中で、これをやりましたということで、例えば避難所のWi-Fiの設置がどれくらい進んでいるのかというのは、ある程度数値化はできるのかと思えます。このWi-Fiと避難所に関しては、避難所のためというよりは、各地域の現状シートの荒川地域の所で、まちづくりの活動拠点「あら、ほっ」というのを紹介されていますが、そのような拠点とかに、例えばWi-Fi、あるいはICTとかで通信環境が整備されていて、そこがまた避難所の機能を果たすというのが、通常何かの形で使われていて、それが避難所になるという形がベストですので、そこまで含めた計画というものを立てていくのが望ましいと個人的には考えております。</p> <p>デジタル変革に対しては、今ほど申し上げましたように、粘り強く取り組めるような形で、行政だけではなくて市町村とかトップの方の理解とリーダーシップがないと進んでいかないので、様々なご意見をいただいたうえで、行政或いはトップの方に説明していく必要があると個人的には考えております。ご検討いただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は港の関係のことで少しお願いしたいことというか、項目の説明をさせていただきたいのですが、7ページの2-6「港の整備と賑わいづくり」ということでほとんどのことがこれの対象になるのですが、先日、県の方からもここ数年で港の釣り人がものすごく増えているので、場所の許可をしてもよいという話が持ち上がったのが一つあります。そのなかでいろいろ話をした結果、私達は場所を提供してよいのですが、かなりの問題が出てくるという懸念があっ</p>

	<p>たもので、反対ということではないのですが、この「イベント来客数」の対象にならないとは思いますが、賑わいに関してはかなりの人が入るもので、何とか市の方でも、今後様々な形で、釣りの場合どのような形にして取り組んでいくのが良いのか、課題に載せていただきながら今後のことを検討してもらいたいということが一点。</p> <p>10 ページの 3-3 「水産業の活性化と消費拡大の推進」、これに対する取り組みについては、ほとんどまだ課題が残っているもので、これを一つ一つ言っていくのもきりが無いというような形ですが、その中で新規漁業就業者に関しても今も現状やっているのですが、この中のコメントとして、これは国の制度でやっているのですが、国の制度というのは人数が決まっているために何人もの申し込みがあっても対応できないということで、平成 30 年度くらいから市の方をお願いしてこのような制度を作って、これを実行している。今後我々としても高齢化して、新しい人よりももう辞めていて、人がものすごく少なくなって、はっきり言って我々が現役の当時は 40 隻もあった船がもう 12、3 隻。今後私たちが新規加入は漁師の子でなければダメだという考えをなしにして、本当に魚を捕って生活をする、組合に貢献するという人であればどなたでも。例えば他県の人であってもそれを受け入れるというような気持ちも今持っているので、この制度に関して、国は国として、国で対象にならない外れた人に対しては、十二分な形のもので、今後補助助成としてお願いしたい。</p>
委員	<p>本当に山積みだと思います。様々なバージョン、パターンからやることだらけで、これを全部やろうと思ったら予算の方も限られているし、全てできるわけがない。常々私が思っていることが、年間の行事だからとか、基調講演だからとか、何とか記念だからとか、この行事はやる意味があるのかわからないものが結構年間を通してある。そこに金を使うのであればいつそ時代遅れだからやめてしまおうとか、新潟市まで行って出席者がいないから市役所の職員とか県庁の職員とかに電話して出席者を募って、名簿を作って、何々大会、決起大会をしましたみたいな、何だこれと思うような、あんなものはやめてしまって、そこに金を使うのだったら他の所に使った方が良いのではないかと思います。一方で地域の中とか役場の人が回らないのを一生懸命地域の人がやっていて、自分も若い時、会議所青年部の方もそうですが、どこへ行っても同じ顔ぶれで、PTA に行っても、会議所青年部に行っても、商工会に行っても、イベントに行っても、また昨日も会った人と同じメンバーで同じこと繰り返しているわけです。いい加減もうできないし、根底から改めないといけないので、もう少し頭を切り替えていかないと、昔からやってきたからこれを今年もやるみたいなことはやめてどうかと思います。</p>
委員	<p>2 時間ほど皆様のご意見を伺っておりますが、それぞれの分野でご活躍の皆さん、個々のご意見をかなり言っているような気がします。私どもはこの審議会を、本来どのスタイルで、どの立ち位置で審議していけばよいのか、今皆さんからのご意見は事務方が整理しようもないのではないかと思います。出されたものを見て審議するというような、そのような意味合いではないのですが、私共審議会の個々の立ち位置を、私は非常に疑問を感じます。個人的な意見とか個別の意見など、確かに皆さん重要な意見をおっしゃっているのは重々わかりますが、これでは審議会は先に進まないのではないかと懸念しております。今後会長にお願いしたいのは、私共の立ち位置をもう少しはっきりさせていただければ非常にありがたいと思います。</p>
会長	<p>時間に追われていて大変申し訳ありませんが、只今の立ち位置という事も踏</p>

事務局	<p>まえて、私と事務局とで次回までには議論して考え方を整理してお示したい と思います。</p> <p>まだまだご意見が続くかと思いますが、先ほど事務局からも申しました事後 意見シートというところで、今日は言い足りなかったとか、タイミング的に言 うのを逸してしまったとかいったご意見がございましたら、この様式でご提出 いただけますよう、大変申し訳ありませんがお願い申し上げます。</p> <p>5 その他 (1) 次回の開催日 (事務局が説明)</p> <p>6 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--